

2017年第3四半期（7月～9月）における海外安全対策情報

2017年10月
在キャンベラ日本大使館

1 ACT（首都特別地域）の治安情勢

治安情勢は全般的に安定していますが、犯罪発生率は日本に比べて高く、最近
は車上荒らしや強盗など、金銭目的の犯罪が多く発生しています。繁華街やショ
ッピングセンターの集まる地域だけでなく、静かな住宅地でも発生しており、中
にはナイフや銃などの武器を使用した例もあります。外出時は、貴重品を外から
見えないように携行する、私有車の車内には貴重品を置かない、車や自宅には警
報などの防犯設備を施すなど、普段から安全に対する十分な心掛けが必要です。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 犯罪発生地域の傾向

South Canberra (-9.4%) とNorth Canberra (-7.7%) のキャンベラ中心部と
Tuggeranong (-27.6%) で最も大きな減少が見られます。一方、Molonglo (+37%)、
Weston Creek (+11.7%)、Belconnen (+9.8%) 及びWoden (+8.8%) で増加が見られま
す。

(2) 犯罪発生件数と犯罪の傾向

ア ACTでの3ヶ月間の犯罪発生件数（カッコ内は昨年同時期の発生件数）

・殺人、殺人未遂	：	0件（0件）	0.0%
・暴行	：	578件（694件）	-16.7%
・性的暴行	：	95件（93件）	+2.2%
・対人犯罪	：	40件（63件）	-36.5%
・不法目的侵入	：	592件（567件）	+4.4%
・強盗	：	56件（49件）	+14.3%
・窃盗	：	2141件（2479件）	-13.6%
・車両盗難	：	435件（331件）	+31.4%
・器物損壊	：	1174件（1163件）	+0.9%

ACT全体の犯罪発生件数は昨年同時期に比べ6.0%減少しています。

イ 犯罪別の傾向

車両盗難が31.4%、強盗は14.3%増加しています。一方、対人犯
罪、暴行及び窃盗は減少しています。

(3) 邦人の一般犯罪の被害については認知していません。

3 テロ・爆弾事件発生状況

- (1) 豪州政府の発表するテロ警戒レベルは、国家テロ脅威警戒システムの5段階中、引き続き上から3番目の「起こりそうである(Probable)」とされています。
- (2) 豪州全体で2016年に発生したテロ事案は1件、テロ未遂事案は7件となっています。2017年6月にメルボルン東部のサービス・アパートで男が見知らぬ男性を射殺し、女性1人を人質に取った上で同アパートに立て籠もり、駆けつけた警察と銃撃戦の末、射殺されました。7月にはシドニーで航空機に爆弾を持ち込もうとしたテロ計画が事前に抑止されました。豪州政府は、引き続きテロ容疑者の摘発を推進し、政府関連施設等の警備を強化するとともに、若者の過激化防止対策に力を入れています。
- (3) 政府中枢の多く集まるACTでは、現在のところ具体的なテロの脅威を示す情報は把握されていませんが、世界規模でテロが発生している中、テロ対策が重視されています。連邦議会等の警戒体制はより強化されていますが、人が多く集まる場所に足を運ぶ際は十分な注意を払う必要があります。

4 誘拐・脅迫事件発生情報

邦人の誘拐等の被害については認知していません。

5 日本企業等の安全に関わる諸問題

- (1) 一般的に対日感情は良好ですが、シドニー、メルボルン、ブリスベン等大都市において、我が国の調査捕鯨やイルカ漁に反対する環境・動物愛護団体により、小規模ながらデモや抗議活動が行われています。
- (2) ACTにおいては認知していません。

参考：

1. [ACT警察犯罪統計](#)
2. [ACT（首都特別地域）の事件発生状況（2017年3四半期）](#)